

会員の活動紹介

毎日暑いですが、それでも、日の出は徐々に遅くなり、最も暑い時期には、既に秋の萌芽が見られます。満つれば欠くる、何事も。もう少しの辛抱です。

さて、今回は、当会員のみなさんが主催している素敵なイベントを二つ紹介いたします。是非、ご参加ください。(会員 丸山 隆)

●まずは、紙さんご夫妻が中心となって開催されているとても楽しいマーケットをご紹介します。

清流書空マーケット

毎月最終日曜日に、日高市清流の森の果樹園にて青空マーケットを開催しています。桑の木にぐると囲まれ、お日様が出るとひだまりのポケットのように温かい気持ちになるような場所です。そこに近所の方の育てたお野菜や果物、手作り雑貨、ケーキやパンなどを持ち寄って、おしゃべりしたり、お茶を飲んだりしながら近くに住む人同士の交流の場になることを願って開催しています。よろしければどうぞお出かけ下さい。

次回開催日：9/26、10/31、11/28
10時から12時まで

場所：森の果樹園
(日高市清流)
問合せ：042-982-5023
紙英三郎
info@tanenomori.org



緑の中の青空マーケット

●次は、長野市大岡で活躍されている遠藤さんが主催している『農楽里ファーム』のイベントをご紹介します。

『農楽里ファーム』では、有機・無農薬・自然農法の古代米や雑穀、米、野菜などを作る傍ら、農作業を体験できる企画なども行っています。くわしくは、ホームページを御覧ください。

農楽里の稲刈り

日時：10月2日(土)午前9時(遅れての参加も可) 長野市大岡 慶師バス停集合

午前…稲刈り

お昼…竈炊きご飯とおぶっこみ作り

午後…お昼寝・稲刈り

*お申込み、参加費、持ち物等の詳細は、直接『農楽里ファーム』にお問い合わせください。



農楽里ファームの太田和夫さんと遠藤夏緒さん

問合せ：TEL&FAX 026-266-3034

メール：norari@grn.janis.or.jp

ホームページ：<http://www.norari-farm.com/>

やませみ

58

発行日/2010年9月5日

編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)

埼玉県飯能市柳町18-17

●機関誌「やませみ」は「銀河堂」「Café豆さる」「ロビンゲッドフェロー」「丹三郎」にあります。

●「やませみ」へのご意見をお寄せください。投稿もお待ちしています。

URL=<http://www.tenranzan.com/>

E-mail=tenta@tenranzan.com

会員募集中!!

1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

*年会費 ●正会員……普通会員 2,000円
特別会員10,000円

●賛助会員………1口10,000円

*会費・カンパ送り先

郵便振替口座「NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会」00580-9-16342



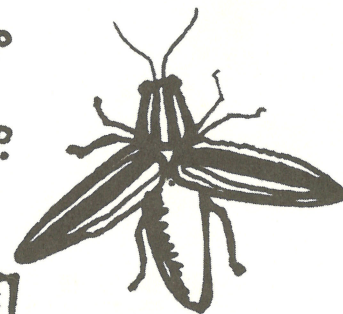
NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

No. 58

2010.9.5

やませみ

たまむしが飛ぶよ
暑い日中を立ちながら
そんなふうに見えるんだ
ふらふらと羽をたげて
そんなふうに見えるよ
どこへ止まろうか考えているのたろ



もくじ

●参加してみませんか? てんたの活動へのおさそい

◎今、東やつトラスト地『ほとけどじょうの里』が楽しい!!!

◎環境省モニタリングサイト1000(モニ1000)里地調査

◎ふる里散歩

●ニュージーランドの養蜂家・鈴木さんご家族とのミツバチ交流会

●谷津田のニホンミツバチ…その後/大石 章

●会員の活動紹介



参加してみませんか？ てんたの活動

今、東やつトラスト地 『ほとけどじょうの里』が楽しい!!!

東やつトラスト地『ほとけどじょうの里』では、これまでの谷津田跡の湿地の再生、ピオトープ作り、自然観察に加え、新たに『シイタケ栽培』や『日本ミツバチの養蜂』、『多目的石窯作り』などが次々と始まり、ぐんぐん魅力アップ状態です!!! これからも、市民の力で買い取る事ができたこの地で、ますます楽しく拡がりのある新しい里山作りの活動ができるといいなと思っています。ぜひ、ティビ(アメリカ先住民のテントです)が目印の『ほとけどじょうの里』をお訪ねください! あなたのご参加、お待ちしております!!!

●東やつでの活動内容

通年作業



ため池の保全、
椎茸栽培、広場、
沢、畦、水路等
の手入れ。

日本ミツバチの 飼育



巣箱作り、分蜂管理、
蜂蜜採取、通年の観察と世話。

石窯作り



小屋がけ、石窯基礎作り、レンガ積み、
粘土作り、窯ドーム作り、パン、ピザ、
焼き物、炭焼き等の試作作業。



谷津田の水辺づくりエコツアーにて水路整備作業

●活動日：今後の予定

*作業時間は基本的に、毎月第2火曜日と第4日曜日の午前10時から午後3時までです。現地に直接集合です。

9月14日(火)・26日(日) 10月12日(火)・24日(日)

11月9日(火)・28日(日) 12月14日(火)

*作業できる服装・長靴・お弁当などをご持参ください。

*雨天の場合は中止です。天候がはっきりせず迷われた時はお問い合わせ下さい。

●連絡先 042-977-1890 早瀬
hayase3.cat@orange.zero.jp

環境省モニタリングサイト1000(モニ1000)里地調査

天覧山・多峯主山地域は「環境省モニタリングサイト1000里地調査地域」に指定され、当会ではこの地域で、下記項目について調査を行っています。100年間の自然の移り変わりを見詰める作業です。どなたでもご参加いただけます。日程等詳細については当会ホームページをご覧ください。

※環境省モニタリングサイト1000(モニ1000)……環境省が全国に1000か所程度のモニタリングサイトを設置し、基礎的な環境情報の収集を長期にわたって継続して行い、日本の自然環境の質的・量的な変化を早期に把握するための調査です。



植物相調査…通年 毎月11日午前8時30分から

2年目を迎えたモニ1000植物調査。毎月1回、コース上に出現する植物(イネ科、カヤツリグサ科、シダ類を除く草本)のうち、蕾・花・実のいずれかを確認できたものを、地区ごとに記録していきます。この調査では花を見つける目が大切! 専門知識はなくても、宝探しのつもりで、花を探す好奇心があればどなたでも参加できます。また調査に参加することで身についた、植物についてのいろいろな知識は日々の暮らしを豊かなものしてくれます。あなたもこの調査に参加してみませんか!



ホタル類調査・・・6月上旬～8月



カエル類調査・・・1月上旬～5月



チョウ類調査・・・3月～11月(月2回)



●カヤネズミ調査・・・6月、11月頃の2回、営巣状況の調査

●連絡先 090-3878-8726 大石 ezh01701@nifty.com
080-3458-1539 黒住 robensou.bird@orange.zero.jp

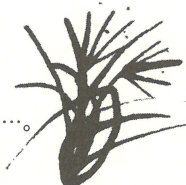
ふる里散歩

当会では天覧山周辺の自然に親しんでいただくために毎月「ふる里散歩」を開催しています。興味深い企画や楽しい企画がめぐる押しです〜どうぞふるってご参加下さい!!

9/12「秋の野草観察会の巻」

日

さてさて、秋の七草って全部知ってますか……?
今年は天覧山で秋の七草といくつ出会えるでしょうか…。
集合/能仁寺山門前 午前9時半(申し込み不要)
参加費/大人300円 子ども100円 ★雨天中止



10/30「谷津田の水辺づくりエコツアー」

土

*昼食付きです。
市民のトラスト地「ほとけどじょうの里」では今まさにピザ釜作りの真っ最中! 汗を流した後は……薪で焚いた美味しいムカゴご飯と豚汁がたまりません!!

集合/飯能駅改札口前 午前9時半
要申込み/先着15名
申込先/てんたの会 042-974-1691(浅野)
持ち物/飲み物・作業できる服装と着替え
参加費/2000円(小学生以下500円) ★雨天中止



11/21 天覧山谷津再生プロジェクト「里山復活祭」

日

*昼食付きです。
天覧山下の「ほとたるの里」で谷津田の保全作業を行います。さて、今

年の稲の出来は(昨年は猪に失敬されちゃいましたが…)どうでしょう??

集合/市民会館北側 中央公園トイレ付近 午前9時

申込み/042-973-2125 はんのう市民環境会議事務局(市役所環境緑水課)

持ち物/軍手、タオル、飲み物

参加費/無料 ★雨天の場合23日に延期

主催: はんのう市民環境会議/協力: てんたの会

12/12「里山のリースづくりエコツアー」

日

毎年大好評企画の里山のリース作り! どんぐりや松ぼっくり、ツタ、草の実など…野山の恵みを使って、世界にたった一つの自分リースに挑戦!! 午前中は山歩き、昼食後にクリスマスリース作りを行います。
集合/飯能市郷土館ロビー 午前9時半

要申込み/先着15名

申込先/てんたの会 042-974-1691(浅野)

持ち物/飲み物・お弁当、山道を歩ける服装

参加費/1000円(小学生以下500円) ★雨天実施

2011 1/1「初日に祈る山歩き」の巻

土

幸多き一年を願って、新しい年の始まりを天覧山の自然の中で迎えてみませんか!

集合/能仁寺山門前 午前6時15分(申し込み不要)

参加費/無料 ★雨天中止



【各回共通 共催/はんのう景観トラスト、(財)埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部/はんのう市民環境会議】

ニュージーランドの養蜂家・鈴木さんご家族との

ミツバチ交流会

ニュージーランドで養蜂をしている鈴木さんご家族とのミツバチ交流会を、7月7日に東谷津で開催し、海外ミツバチ事情やハチミツ料理など興味深いお話を伺うことができました。右ページ東谷津のニホンミツバチの報告と合わせてご覧ください。

みつばち大好き はちみつ大好き

はちみつピコミーレ
鈴木基史

ニュージーランドで養蜂家として働き、妻と3歳の娘と共に「仲良く、楽しく」をモットーに、できる限りの自給自足を目標に、日々を送っています。

日本で2年半の養蜂経験を積み、ニュージーランドへ渡り5年が経ちます。養蜂の仕事は大きく分けて2つあります。1つははちみつを収穫すること、もう1つは果物や野菜の花粉交配のお手伝い。みつばちは春から秋にかけて、天気がいい日は日が暮れるまで懸命に花々を飛び回り、花蜜や花粉を集めています。とにかく働き者の彼女たちの姿を見ると、「僕ももっとやらないと!」といつも感じます。

みつばちが花々から集めてくる花蜜のショ糖がみつばちの唾液中の酵素によってブドウ糖や果糖に変えられてはちみつとなります。蜜源の植物によって味や香りや色がそれぞれ違い、同じみつばちが集めてくるのに不思議なものです。はちみつの生産は人間がコントロールしてできるものではなく、毎年同じ味・同じ量のはちみつが採れるとは限りません。花の状態、気候、気温、雨量などあらゆることに関わっていて正直、我々養蜂家にも予測しきれないので、はちみつは神秘的な食べ物であり、まさに自然とみつばちの作る芸術品です。

花粉交配とは、みつばちたちが果物や野菜の雄花→雌花、雌花→雄花へと飛び回って、正確にいいますと、雄花の花粉を雌花に運んで成立します。ここでもすばらしい仕事ぶりです!みつばちはそんなことにはお構いなく飛び回っているのでしょうか!

僕の父は趣味で住宅地の裏庭と家庭菜園の片隅で養蜂をしているのですが、最初の頃は近所の方々が畑の野菜や果物が豊作、そして庭の花々がよく咲き実る、と不思議がっていました。最近では交配のためにはちの箱を畑に置いてほしいと頼まれる事もあり、みつばちの地域貢献に一役買

っているようです。

そんな我々人間の生活と密接な関係にあるみつばち。ここ最近の悲しいニュースについてよく質問を受けます。すごい速さで変化している環境、農業、そして我々人間の生活スタイル。養蜂家としても、この地球の1人の住人としても、このままではいけないと感じます。我々人間が、みつばちにとって住みづらい環境を作ってしまったのはほぼ間違いないですね。

We Love Bees!=みつばちのことをもっと考えよう!
みつばちにとって心地よい環境を取り戻すために、まずは僕自身の身の回りからできる事をしていきたいと思います。

揚げない大学芋

はちみつ簡単レシピ

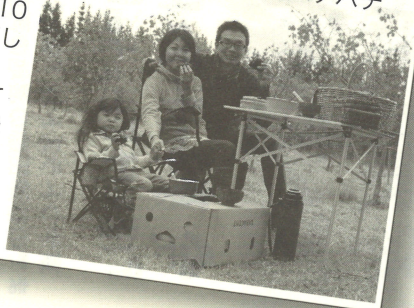
さつま芋の季節♪簡単すぎるレシピですが、旬の野菜はシンプル料理がおいしいですね。

<材 料>さつま芋-中1本/油-大さじ1/2
はちみつ-大さじ1/ごま-適量

<作り方>

- 1.さつまいもを乱切りにする。
- 2.フライパンに油を熱し、さつまいもを入れパチパチと音がしてきたら蓋をし、中火で10分~15分ほど蒸し炒める。
- 3.はちみつをかけて強火にし、表面を焼きつけてできあがり。

鈴木さんご家族



春 ◎ 分蜂騒動の末に

ミツバチは、毎年4月頃から群れが巣別れする「分蜂」を繰り返す。新しい女王蜂が生まれると、古い女王が群れ半分を引き連れて新しい巣へ引っ越しをするのだ。うまく分蜂した群れを巣箱に捕まえば、どんどん蜂群を増やしていくことができる。1年で蜂を3~4倍に増やすことができ、今時こんな優良な投資先はないのではないか。

4月9日(金)、仕事中にYさんから電話があった。「分蜂したよ」「えー?!早すぎ!」

4月下旬からという話だったので、新しい巣箱までは用意してあったが、捕獲準備はまだ不十分だ。早速、養蜂の師匠に電話をして、捕獲方法を電話指導してもらい、Yさんに伝えた。なんとかうまく捕獲できたとのこと。分蜂から3時間以内に捕獲しないと逃げられてしまうので、まさにラッキーだった。

翌日、様子を見に行くと、古い巣の蜂が飛び回り、群の様子がおかしい。そのうちにYさんがやってきて、「昨日と同じだ。また分蜂するよ」分蜂捕獲は是非やりたかったので、連日の分蜂とはなんたる幸運。

間もなく、蜂は巣から飛び出して、作業小屋の屋根にぶら下がった。昨日と同じ場所だ。霧吹きで群れを落ち着かせてから、素手でゆっくりと新しい巣箱に移す。蜂の群れに手を突っ込むのは少し勇気が要ったが、手の中の蜂群はほんのり暖かく、同じ生き物だという感じがする。何度も手ですくっては箱に入れることを繰り返し、3~4回刺されたが、やがて箱に収まった。

昨年7月に蜂群を手に入れてから、1年とたたないうちに群れが3つに増えた。こんなに簡単に増えるなら、数年後には養蜂業に近いものができるのではと夢が広がる。



軒先に集まったハチの群れを手で扱う

しかし、数日後に様子を見に行くと、新しい巣箱が静かすぎる。中をのぞくと両方ともからっぽ!逃げられた。2度目に捕獲した群れは、小さな巣を作りはじめていただけに残念だ。近くのお寺の木の洞穴にミツバチが営巣したが、逃げた群れかもしれない……。

谷津田のニホンミツバチ ……その後

大石 章(会員)

夏 ◎ 待望の採蜜

ミツバチの話をする、みな「いつ蜜がとれるのか」と訊く。そりゃ私も早く食べたいが、ニホンミツバチは家畜化された西洋種のように何度も採蜜はできない。ハチの負担を考えると年一回が限度だ。本により時期はいろいろだが、師匠は7月頃、箱がずしっと重くなったときだという。

巣箱を持ち上げてみると、かなり重い。ハチ達も蜜がいっぱいのせいか怠けている。今しかないということで、7月19日夕方、急遽採蜜することとした。

採蜜は、よそのハチが泥棒に来ない夕方に行う。18時、巣箱を逆さにして、上に別の巣箱の開口を合わせてのせ、下の巣箱を叩くと、ハチ達は一斉に上の巣箱に移動する……。「あれ?なかなか移動しない。たたき方が弱いのかな。ポコポコ!……」

日が暮れるまでに作業を終えなければならないので、移動したものとして、次に進む。巣箱の上蓋を外して、採蜜だ。巣は上蓋にしっかり張り付いているので、包丁で切り離すが、すぐに蜜がたれ始める。甘い蜜の香りが広がる。ぐずぐずしてはいられない。どんどん巣を取り外し、採蜜担当に渡す。採蜜担当は、巣の幼虫がいる部分を切り取り、巣を砕いてザルに乗せると蜜は下のボールに溜まっていく、という手はずだったが、幼虫部分が混ざり合っているの、実際には難しい。自然は教科書どおりにはいかないが、みな、巣のかけらを舐めて、その甘さに歓声を上げた。

ハチ達を元の巣に戻して、3つのザルいっぱいもの巣を抱えて、日没前に撤収。巣から蜜をたらしきるのは、一昼夜かかる。さらに糖度を上げるために、蒸散させる必要もある。多くはYさんの作業となったが、最終的に約4kgの蜜が採れた。ハチさん達ごめんね!そしてありがとう。



ハチの巣を取りだすところ